

体育、保健体育

豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

運動に関する領域

- ① 育成を目指す資質・能力を明確にした上で、難しすぎず易しすぎない適切な課題や、思わずやってみたくなるような場、学習活動を設定する。
- ② 課題を見付けその解決に全員が向かえるよう、見合いや教え合いのポイントを提示するなどチーム等で話し合う視点を明確にする。
- ③ 運動の特性に触れ、多様な関わり方を通して、動きや技能を高め、運動の楽しさを味わうことができる指導方法を工夫する。

- ④④ 単元など内容や時間のまとまりの中で、指導内容と評価場面を適切に組み立て、教師の指導の改善や児童生徒の学習意欲の向上につなげる。

保健に関する領域

- ① 健康・安全に関心をもつことができるようになるための教材や発問を工夫する。
- ② 健康課題の発見や解決のため、習得した知識を生活に適用したり、応用したりする学習過程を工夫する。
- ③ 健康・安全の大切さを実感することができるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」等の活動を効果的に取り入れる。

基本的な知識や技能を活用して課題への取り組み方を工夫する学習の例

小学校第3学年 単元名 ゴール型ゲーム「タグラグビーを基にした易しいゲーム」



◇単元の目標（一部）

規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。 [思考力、判断力、表現力等]

◇単元的主要な学習活動と評価の計画例（一部）＜全8時間＞

時	1	2	3	4	5 (本時)	6
ねらいと主な学習活動	学習の進め方や場の安全について知り、見通しをもつ	ゲームの行い方を知り、ゲームを楽しむ 1 場の準備、準備運動、健康観察 2 学習課題(めあて)の確認 3 ゲームにつながるスキルアップドリル 4 ゲームⅠ・チームの課題を知る 5 課題解決についての話し合い★ 6 ゲームⅡ・話し合いを実行する 7 振り返り、健康観察	※ゲームは全て易しいゲームで行う(ボールを持っていない人も得点できる)(ゲームは攻めと守りを分けて行う) ★課題解決についての話し合い(第3時、第5時) 3:誰もが楽しくゲームに参加できるように規則を工夫する。 5:ボールを持っている人と持っていない人の役割分担を行い、チームに合った作戦を選ぶ。			チームの課題を解決して、ゲームを楽しむ
評価規準	【主】場や用具の安全を確かめている。	【知】タグラグビーの行い方を言ったり書いたりしている。	【知】ボールを持った時に、ゴールに体を向けることができる。	【知】手渡しパスをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすることができる。	【思】ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。	【主】友達の考えを認めようとしている。

【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現 【主】主体的に学習に取り組む態度

◇本時のねらい(5/8)

点数を多く取るために、ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を選んでいる。

＜既習内容を活用し解決の糸口を共有する場面＞



作戦タイムでAチームが悩んでいるようです。皆さん聞いてくれますか？



ボールを持ったらカットインでゴールに向かって走り、トライができるようになりました。でもボールを持っていないときに、どうしたらよいか分かりません。皆さんはどうしていますか？



これまでに試した作戦の中から、Aチームのお悩み解決につながるヒントを知っている人はいませんか？



サイド作戦でボールを持っていない2人がスペースに走りおとりになってそのすきにボールマンがサイドを走ったら全員トライできました。



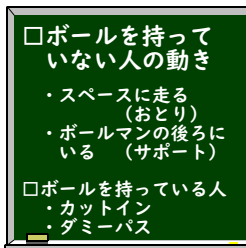
パス作戦で、ボールを持っていない人はボールマンの後ろにいて、タグされたらボールマンを助けることができる場所に動くよと思います。

どちらのチームも前の時間に学習したことを生かして考えていて素晴らしいですね。ボールを持っていない人がおとりになったり、ボールマンのサポートの位置を決めたりしたのですね。ゲームではボールを持っている人と持っていない人の両方が大事です。もう一度自分のチームで考えてみましょう。



「思考力、判断力、表現力等」は、「新たな情報と既存の知識を活用しながら課題を解決することから知識・技能を評価した後に思考・判断・表現を評価するような学習過程を工夫します。」 ④

児童が見付けた課題を解決するために、複数の解決方法を試し、妥当性を判断できるように、教師は練習方法や作戦例を事前に提示することが大切です。 ④



教師は例示を基に動きのポイントを紹介するなど、よい動きや作戦を学級全体に広めていくことが大切です。また児童のねらい達成に迫る発言は価値付け、板書するなど、課題解決の一助となるようにします。 ②

